

文化・芸術

「森（月光の中のモミの木）」

1927年、油彩、カンバス
26・5センチ×21・5センチ

マックス・エルンスト

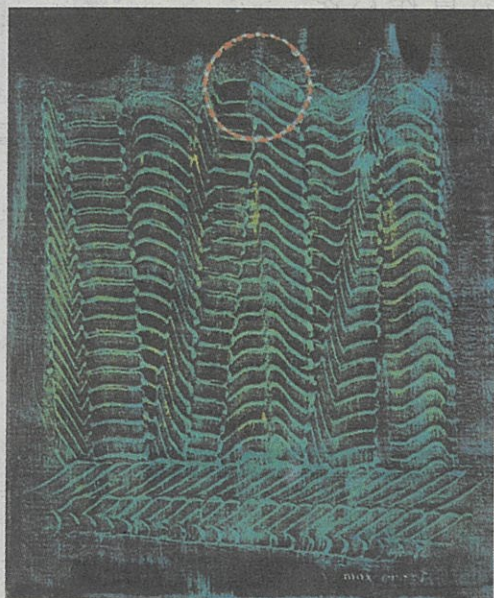
（1891～1976年）

ドイツ生まれのマックス・エルンストは、現実を超えた夢や無意識の世界を描くとしたシュルレアリスムの中心的な画家です。木目や紙の凹凸を写し取るフロタージュなど、偶然からイメージを導き出す独創的な手法を生み出しました。

エルンストにとって「森」は、幼いころから親しんだ自然であると同時に、神秘や不安を秘めた特別なモチーフでもありました。1927年ごろから、天体を思わせる円が浮かぶ「森」の連作を展開しました。濃緑の層が幾重にも重なる画面の中で、この円は不穏な光を放ちます。浮かぶ円は、蝕（しょく）のようです。「森」は、見る者を未知の奥へと誘います。

本作は、18日から始まる特集展示「シュルレアリスムの時代」でご覧いただけます。

（小此木）



《名画の扉》

特集展示「シュルレアリスムの時代」から